令和6年度特定分野に特異な才能のある児童生徒への支援の推進事業

京都市教育委員会

次第

1　実証研究の概要

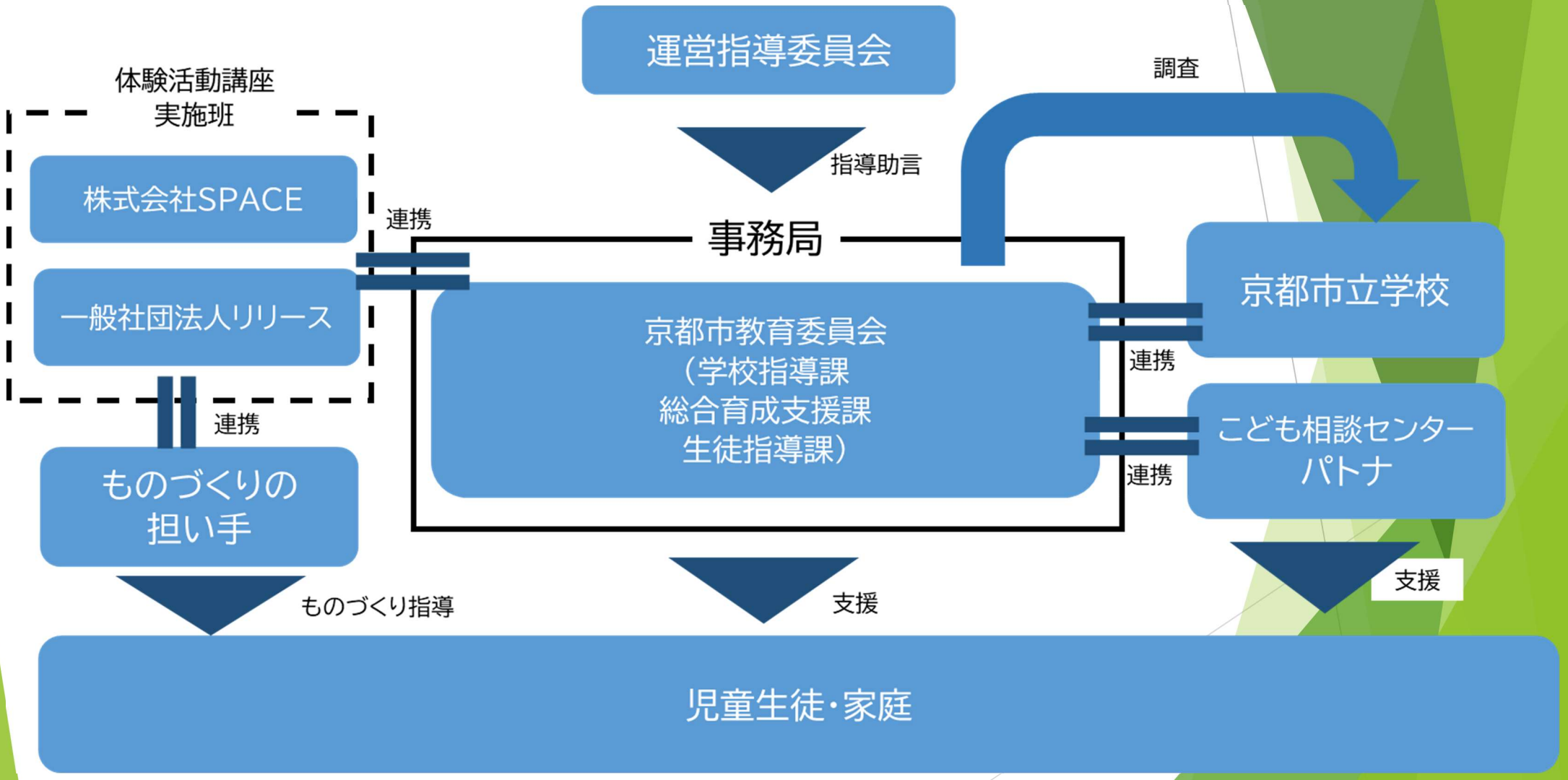
2　研究1

3　研究2

4　まとめ

実証研究の概要

実施体制


運営指導委員会
調査
体験活動講座
実施班
指導助言
株式会社SPACE
連携
事務局
一般社団法人リリース
京都市教育委員会
（学校指導課
総合育成支援課
生徒指導課）
京都市立学校
連携
連携
こども相談センター
パトナ
連携
ものづくりの
担い手
支援
ものづくり指導
支援
児童生徒・家庭

運営指導委員会　年間2回の会議開催

所属・職名	氏　名	担当分野
京都教育大学教育創生リージョナルセンター 機構総合教育臨床センター学びサポート室長	小谷　裕実	小児医学
株式会社SPACE　代表取締役	福本　理恵	特異な才能のある児童生徒への支援
京都教育大学教育創生リージョナルセンター 機構総合教育臨床センター講師	伊藤　駿	特異な才能のある児童生徒への支援
京都市立洛風中学校長	芦田　美香	不登校児童生徒への教育的支援
京都市教育委員会総合育成支援課 発達障害支援室長	平塚修一郎	特別支援教育
京都市教育委員会生徒指導課首席指導主事	水野　博之	生徒指導
京都市教育委員会生徒指導課首席指導主事	土井　則夫	生徒指導
京都市教育相談総合センター カウンセリングセンター長	長谷川智広	臨床心理学

実証研究の概要

	概　要	対　象
研究1	教員へのインタビュー等を行い、特異な才能のある児童生徒が過ごしやすい学級づくりなどについて研究する。	京都市立小学校教員及び中学校教員（それぞれ教育委員会指導主事含む） →全ての特異な才能のある児童生徒を対象、学校内での支援に焦点
研究2	京都ならではのものづくりの担い手の協力を得て、伝統文化・芸術等の体験活動講座を実施し、参加児童生徒の心理面等への影響について研究する。 体験活動講座のような学校外の学びへの継続的な支援について研究する。	京都市立小・中学校に在籍する小学校4年生～中学校3年生の不登校児童生徒等でものづくりに関心のある者 →特異な才能のある児童生徒のうち学校生活に不適応感のある者を対象、学校外での支援に焦点

研究1

令和5年度実証研究のまとめ

特異な才能のある児童生徒にとって、よりよい学びの場

１　教育プログラム
（1）多様な分野への興味関心を引く仕組み
（2）スモールステップで自分らしさを表現できる仕組み

２　人間関係の場
（1）互いに助け合うような一体感（とりわけ小学生）
（2）自由に自分の意見を言える雰囲気（とりわけ中学生）

【研究1】実施内容

1　概要

　小学校教員及び中学校教員(それぞれ教育委員会指導主事含む)へのインタビューを通じ、令和5年度実証研究まとめで仮説として設定された学級風土を作ることや特異な才能のある児童生徒への支援に当たって、どのようなことが求められるか等についてインタビューを行い、学級での取組みのモデルの検討を行った。

2　インタビュー対象者

　在籍する学校長から学級経営の力量について推薦のあった教員及び教育委員会に在籍する指導主事(いずれも30歳代から40歳代)を抽出。

(1)小学校教員　5名　(女性3名、男性2名。)
(2)中学校教員　5名　(女性1名、男性4名。)

【研究1】実施内容

4　インタビューの方式

対面又は、オンラインによるインタビュー。
インタビュー時間は、1人30分から40分程度。

5　質問事項

区分	質問項目
学級づくり	①学級の中で （小）児童同士が助け合うような一体感 （中）学級の中で自由に発言がしやすい雰囲気 を作るために必要なことや有効な工夫は何か？
特異な才能のある児童生徒	②これまで、特異な才能があると思えるような児童生徒を担当したことはあるか？ （ある場合）・登校状況はどうだったか？ ・どんな児童生徒だったか（能力、特性、課題）？
	③特異な才能があるような児童生徒が学級にいた場合に、その児童生徒が居心地よく過ごせるために教師にできることにはどんなことがあるか（個別の対応、学級づくり）？

【研究1】実施結果

校種	取組
小中共通	○4月にルールを示す（排除や人を馬鹿にすることは許さない）。 ○よい行動やがんばったことに対しほめることが重要。 ○全ての子どもが得意なことで活躍したり、目立ったりできるようにする。
主に小学校	○教師の第一印象が重要。 ○まずは教師が子どもとの関係づくりをする。 ○そこから子ども同士の関係につなげていく。 ○教師が子どもにモデルを示す。 ○ほめる際に「ありがとう」と子どもに感謝を伝える。 ○行事や係活動などを通じ、戦略的に仕掛けをしていく。
主に中学校	○教師・生徒としてだけでなく、対等な信頼関係が重要。 ○時には、教師の失敗談なども語る。 ○教師は子ども同士をつなぐ役割を担う。 ○ほめる際に、学級通信などを活用。 ○子どもの安心感が重要。 ○教師が常に機嫌よくいることが大切。 ○学校が安全な場であるために時には叱ることも必要。 ○教師間（主に学年団）での関係性が重要。

小学校高学年になると、小・中それぞれの取組が重なり合う。

研究2

【研究2】体験活動講座 実施内容

1　体験活動講座の実施日時
　令和6年11月12日(火)～15日(金)
　10時～16時(講座によって若干の違いあり)

2　体験活動講座の実施概要

	講座１	講座２	講座３
体験内容	京藍染	和ろうそく	陶芸
体験先の工房	京藍染工房 松﨑　陸	中村ローソク	紅村窯
参加児童生徒数	５人 ①小４女子 ②小４女子 ③小５男子 ④小５女子 ⑤中２女子	４人 ①小５男子 ②中３女子 ③中３男子 ④中３男子	３人 ①小４女子 ②小４女子 ③小５男子

【研究2】体験活動講座 実施内容

3　実施スケジュール

		講座１ （京藍染）	講座２ （和ろうそく）	講座３ （陶芸）
１日目	午前	オリエンテーション 錦市場見学・買い物		
	午後	伝統産業ミュージアム見学		
２日目	午前	レクチャー	レクチャー	レクチャー 陶磁器会館見学
	午後	絞りの体験	作り方を先輩職人から学ぶ	土もみ・手びねりの実践
３日目	午前	松﨑氏の技法等の見学	作りたい技法を見つける	電動ろくろの体験
	午後	図案の作成 技法の体験・練習	蝋燭製作の一連の工程の実践 デザインの考案	釉薬を学びデザインの考案
４日目	午前	オリジナル作品の考案・作成	デザインの着色	オリジナルデザインの作品を制作
	午後	講座ごとにまとめ作業→発表会		

【研究2】体験活動講座の様子

1　1日目を欠席した子どももいたが、全員が最後までプログラムをやり切った。

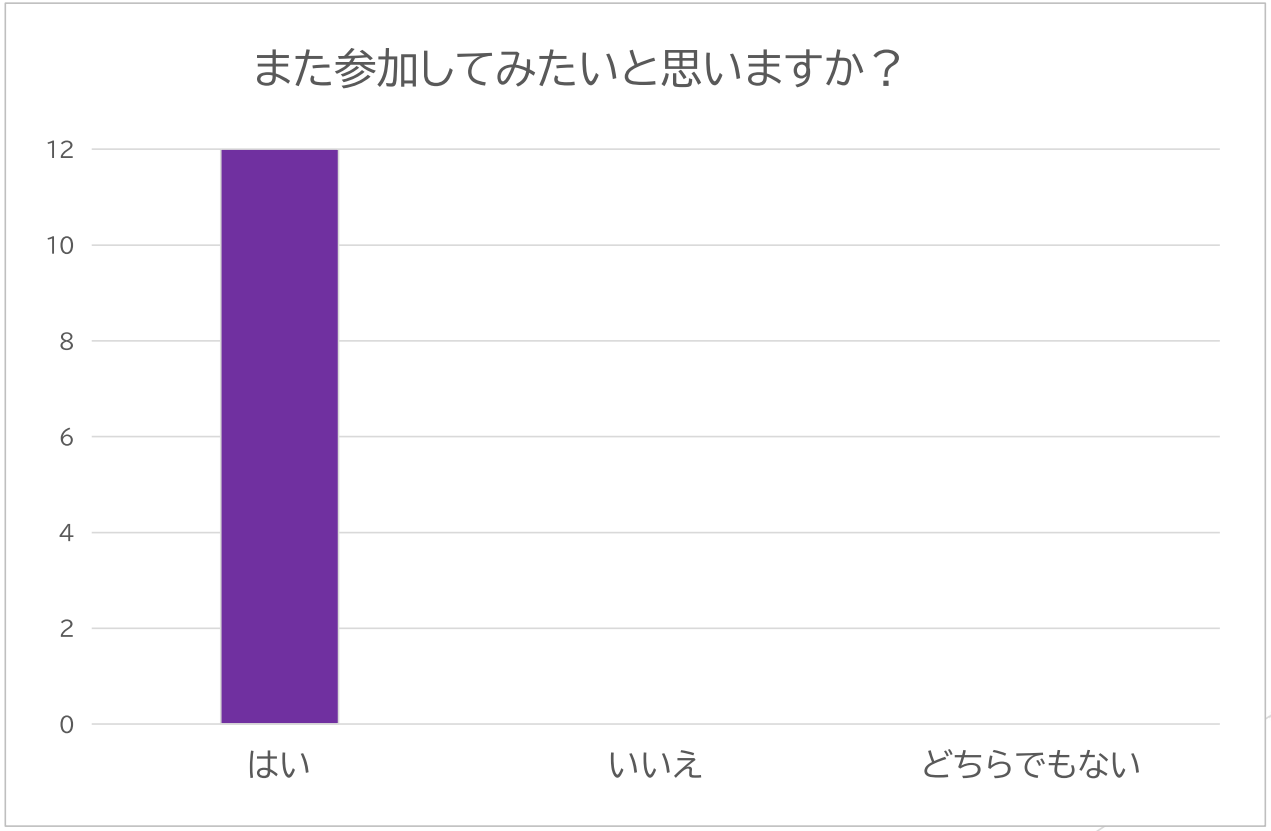
2　プログラム開始当初は、緊張した面持ちの子どもも見られたが、工房スタッフからの温かな関わりや運営スタッフの個別的な関わりにより、プログラムが進むにつれ、子ども同士のやりとりが増えてきた。

3　また、子どもたちが、工房スタッフから教えてもらう、様々な技法に関心を持って、ワークにも積極的に取り組む様子も見られました。

4　最終日の発表会では、初日とは見違えるほどの笑顔が子どもたちに見られ、工房スタッフ、運営スタッフも交え大変温かい雰囲気となった。

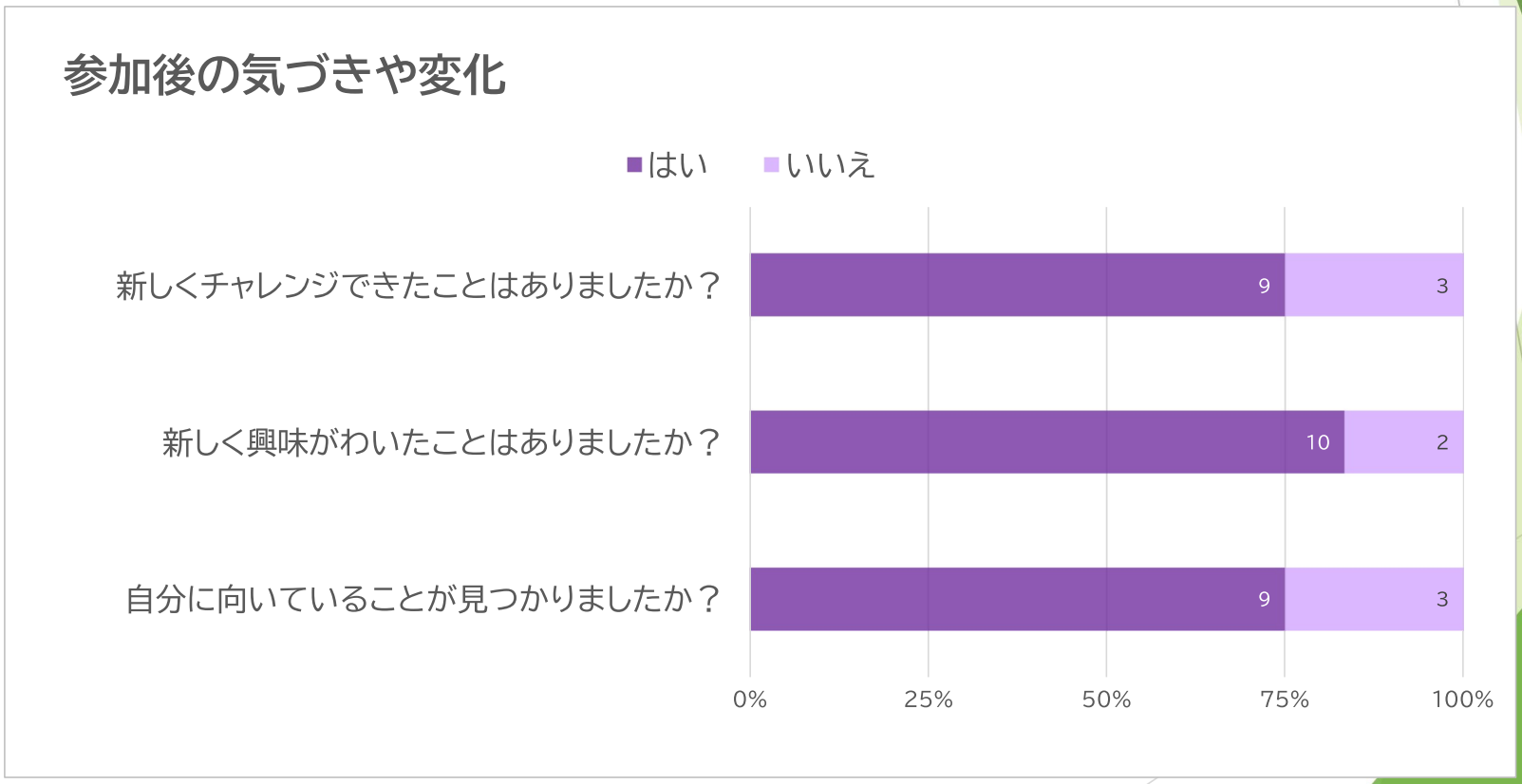
【研究2】体験活動講座実施後のアンケートの結果

1　再度の参加希望



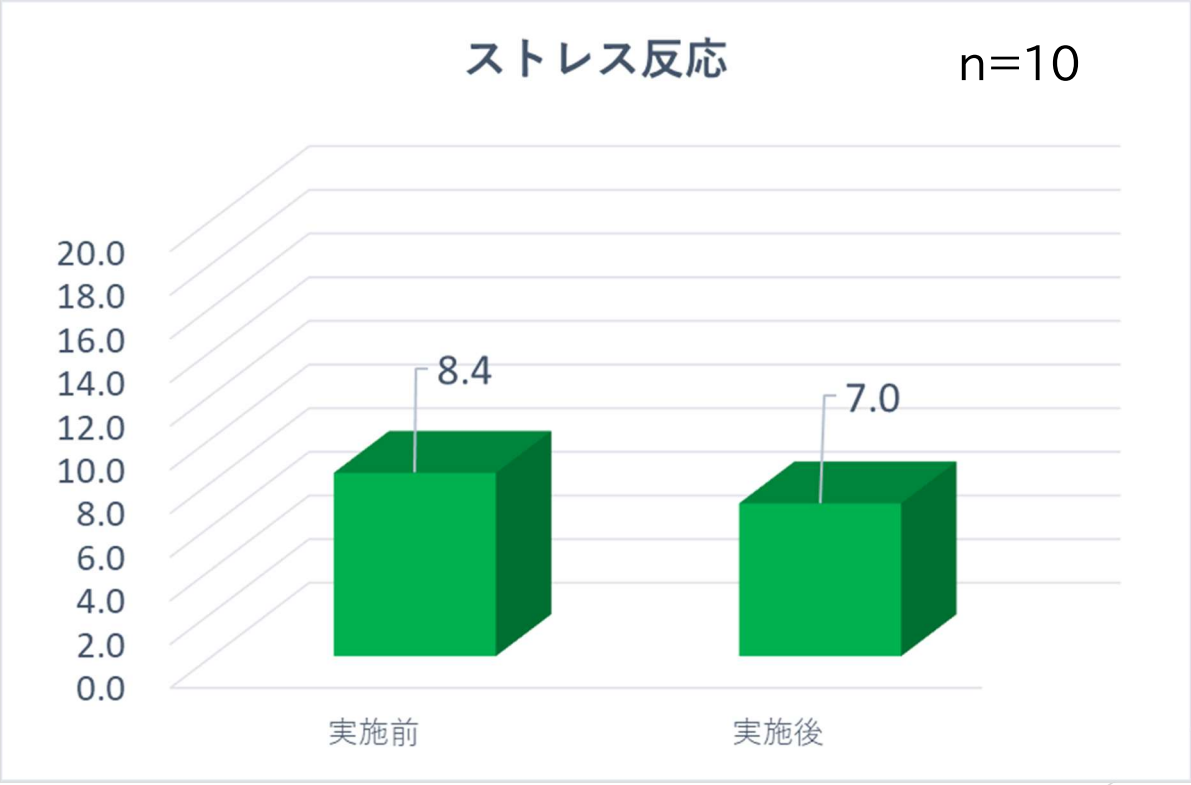
【研究2】体験活動講座実施後のアンケートの結果

2　体験活動講座参加後の気づきや変化



【研究2】体験活動講座実施前後のアンケートの結果

3　体験活動講座参加前後の児童生徒の変化



t検定の結果、p<.01で有意な数値の低下

【研究2】2年間の取組を通じて

	専門的なノウハウを持つ民間企業等との連携	ものづくりの担い手（工房）との連携
見えてきた強み	公教育にはないノウハウによる新たな教育機会の創出	困りを抱えた子どもたちへの支援に対する献身的な熱意
課　題	事業の経営的な側面	本来業務とのバランス
今後の方向性	効果的な資金の調達	受け入れ先の分散化

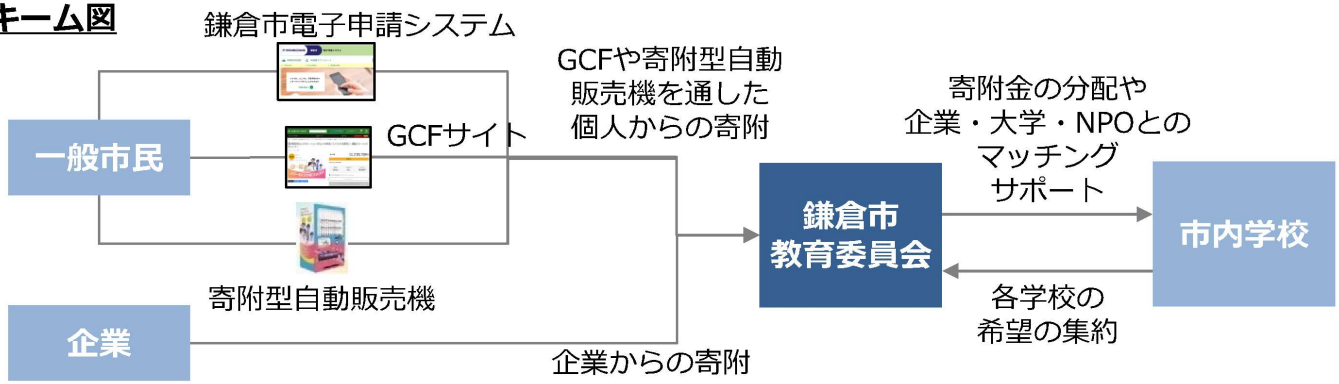
【研究2】継続的な支援の実施の参考となる他の自治体の事例

鎌倉市教育委員会：
資金調達の多様化と受け皿のための基金設立

・GCF※や寄附型自動販売機を活用して市内外から寄附を獲得。
寄附金を積み立てるための基金を設置し、柔軟性が高い資金を捻出。

※自治体クラウドファンディング

スキーム図



経済産業省「イノベーション創出のための学びと社会連携推進に関する事例集」より

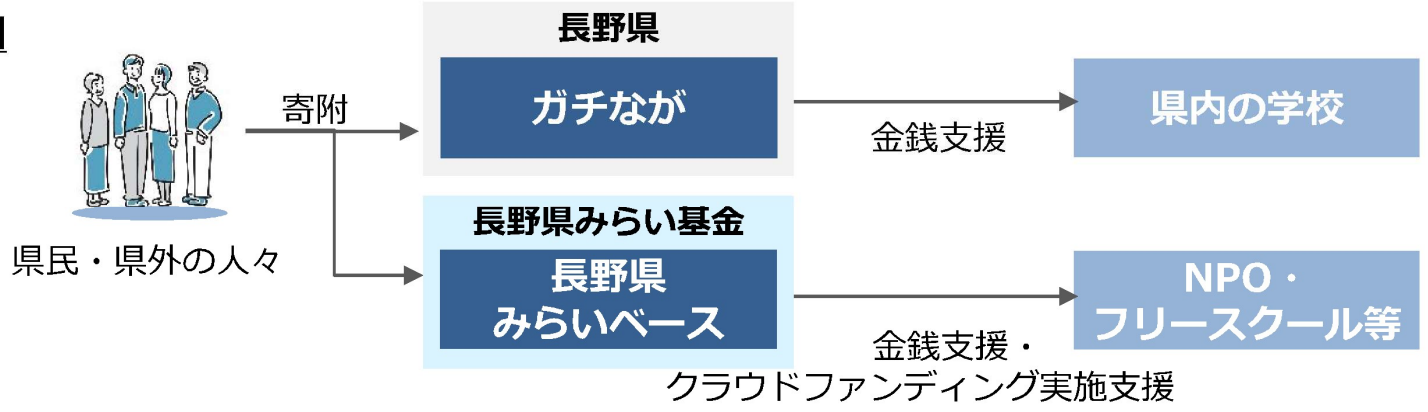
【研究2】継続的な支援の実施の参考となる他の自治体の事例

長野県：寄附募集支援の制度及び仕組みの設計・整備

・民間組織において制度及び仕組みを設計。寄附サイト「長野県みらいベース」（（公財）長野県みらい基金）を構築。

・県直営ふるさと納税サイト「ガチなが」での学校支援と「長野県みらいベース」でのNPO等支援により、包括的な支援が可能。

スキーム図



経済産業省「イノベーション創出のための学びと社会連携推進に関する事例集」より

【研究2】継続的な支援の実施の参考となる他の自治体の事例

長野市：子どもに多様な体験と学びを提供する教育クーポン

・全国初の子どもの体験活動支援を軸とした所得制限のない全小中学生を対象とする教育クーポン事業。企業や地域コミュニティと自治体が連携しながら進められたモデルケース。

習い事

市の登録を受けた教育事業者等が提供する
主に以下に該当する継続的な教育サービス

- **文化・芸術教室**
  （英会話、音楽、絵画教室など）
- **スポーツ教室・団体**
  （野球、ダンス、スポーツチームなど）
- **学習教室** ※中学生のみ
  （進学塾、補習塾、家庭教師など）
- **フリースクール、発達支援**

体験プログラム

市の登録を受けた団体や個人が提供する
主に以下に該当する単発のプログラム

- **自然体験・社会体験**
  （キャンプ、職場体験など）
- **スポーツ・運動**
  （スキー教室、サッカー体験など）
- **文化・芸術**
  （楽器演奏体験、アートイベントなど）
- **無料プログラム**
  （企業の社会貢献、公共的団体などが行うプログラム）

長野市子どもの体験・学び応援事業「みらハッ！ケンプロジェクト」特設サイトより

まとめ

まとめ

＜研究1＞

学級風土づくりや特異な才能のある児童生徒の支援に当たり、小中共通で学級開きの際のルールの提示と確認を重視。

・小学校　教員ー児童間
・中学校　生徒ー生徒間

の関係を重視した関わり。

＜研究2＞

多様な分野への興味関心を喚起し、自分らしさの表現の場となることに加え、人生観やキャリア観を広げ、多様性を大切にする環境設定、講座運営が必要。